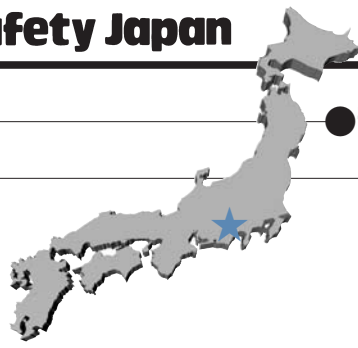


# 地域のチカラ

## ●静岡県の交通安全活動



# 交通事故防止のための施策によって 県民の安全意識向上を図る

平成21年中の静岡県の交通事故件数・死者数・負傷者数はともに前年に比べ減少。特に死者の減少数(31人)は全国2位であった。静岡県警察本部(以下、静岡県警)では、これまで交通事故防止のための施策として「思いやりパッシング運動」「トワイライト作戦」「オールシートセーフティ作戦」「自転車カルガモ作戦」を継続的に展開してきており、こうした施策が事故減少に大きな役割を果たしているといえる。

### 横断歩道では歩行者が優先という意識の徹底

「思いやりパッシング運動」と「トワイライト作戦」は高齢者の事故防止対策としての取組みである。こうした取組みを始めた背景を野村節夫・静岡県警察本部交通部参事官兼企画課長は次のように語る。

「思いやりパッシング運動」は、信号機のない横断歩道を渡ろうとしている歩行者に気づき停止したドライバーが、それをパッシングの合図で対向車にも停止を促すというものです。横断歩道は本来、歩行者の安全が確保されているはずの場所ですが、

横断歩道を横断中の事故が後を絶ちません。死者数では高齢者の割合も高くなっています。そのため、ドライバーに横断歩道を歩行者が優先であるという歩行者保護規定を定着させることが必要であると考え、平成17年から推進を始めました。始めるにあたっては、公道での実験を行い、対向車へのパッシングが効果のあることを確認しました。

静岡県警では職員が使う名刺も活用し、「思いやりパッシング運動」などのPRを行っている

横断歩道等では、歩行者等を優先させる義務があります!!

横断歩道等に横断歩行者等がいる場合は一時停止し、かつその者の通行を妨げてはいけません。

罰則：3月以下の懲役又は5万円以下の罰金

違反金：2点  
反則金：普通車9,000円



パッシングを実施



パッシングを実施

「思いやりパッシング運動」では、パッシングにより対向車に歩行者の横断を知らせ、横断歩道手前で停止を促す。写真は静岡県警が路上で実験を行った時のもの

歩行者妨害の取締件数1万4331件は全国1位(平成21年中)となっている。こうした効果で、「思いやりパッシング運動」を開始してから、横断歩道での事故は激減したそう。

### 夕暮れから夜間は 明るく、目立て、光れ

一方、「トワイライト作戦」はドライバー、自転車利用者、歩行者の各々に夕暮れから夜間にかけて「明るく、目立て、光れ」を実践してもらうための施策である。ドライバーには「早めのライト点灯」「効果的なハイビームの活用」、自転車利用者には「自転車への反射材の装着、反射材着用による運転」「早めのライト点灯」、歩行者には「明るい色の服装と反射材の着用」を訴えている。

「特に、高齢歩行者がドライバーから見て右からの横断で事故に遭うケースが多いので、ドライバーには「右からの歩行者」、高齢歩行者には「左からのクルマ」を見落とさないように強調しています」と野村さん。「早めのライト点灯は、県内のバス会社やタクシィ会社、運送会社が積極的に取り組んでいます。また昨年末に、静岡県警が実施した県民への交通施策認知状況アンケート

ートでは、「思いやりパッシング運動」「トワイライト作戦」ともに9割近くの人が「知っている」と回答しており、実践している割合はそれぞれ約60%、約90%となっています。

### 後部座席も シートベルト着用を

「オールシートセーフティ作戦」はその名の通り、クルマの全席でのシートベルト着用促進を目的としている。

「運転席や助手席に比べると、後部座席のシートベルト着用率はまだ低いのが実態です。後部座席に乗るのは子どもや高齢者が多いことから、街頭での指導と取締りだけでなく、小学校や老人クラブを対象にした交通安全教室ではシートベルトコンビンサーを使って、シートベルト着用の効果を実験してもらうようにしています。」

また、毎月1回「県下一斉オールシートセーフティ作戦の日」として、全県でシートベルト着用の指導取締りを実施している。

### 自転車利用者への 街頭での指導を強化

「自転車カルガモ作戦」は、自転車利用者に交通ルールとマナーの遵守と安全な利用を呼びかけるためのもので、「親子が整然と一列で歩くカルガモを手本とする」という意味が込められている。毎月20日を「県下一斉カルガモ作戦の日」として、自転車利用者に対する啓発活動を強化している。174名の交通安全指導員が街頭に出て、ルール違反をしている自転車利用者に「自転車安全指導カード」を交付し、指導を行うのだ。特に、交差点での事故の要因となる「信号無視」「指定場所一時不停止」、歩行者の危険となる「並進」「安全速度」を重点的に指導している。平成21年中のカードによる指導数は4万枚以上だといふ。

また、自転車の安全利用のため、TSマークなどの損害賠償保険加入やLEDライトなどの普及促進を各関係機関に働きかけているといふ。

### エアバッグジャケットを ライダーに普及させる

主な施策には入っていないが、静岡県警ではライダーへの啓発活動にも力を入れている。静岡県は伊豆や富士山などツーリングスポットが数多くあり、他県からも流入してくるライダーが多いからだ。

昨年11月、静岡県警・大仁警察署は「伊豆スカイライン・ライダー事故・ゼロ作戦」を開催。伊豆スカイラインの通行料が上限200円に値下げ(平成21年11月から平成23年3月までの料金割引社会実験)され、バイクの通行量の増加が予想されることから、ライダーの安全意識向上を目的に行われた。会場となった伊豆スカイライン・亀石峠IC近くのドライブイン



「伊豆スカイライン・ライダー事故・ゼロ作戦」では、警察官がエアバッグジャケットを着用し、転倒を想定した実演を行った

ルール違反をしている自転車利用者には、交通安全指導員がこの「自転車安全指導カード」を交付している